

短報

6-1 訂正

『外邦図研究ニューズレター』3号掲載の「終戦前後の陸地測量部」(塚田建次郎氏と富澤章氏の談話を中心とする)のなかで、写真植字機の導入時期につき、関東軍測量隊の場合は昭和13(1938)年か昭和14(1939)年と注記した(20頁)。しかし、この記事をご覧になった大森八四郎氏より連絡をいただき、昭和15(1940)年9月以降ということが判明したので訂正したい。

昭和15(1940)年に関東軍測量隊にはいられた大森氏から、当時製図班図係におられた先輩(技工見習第一期生、古賀春男氏)に問い合わせさせていただいたところ、関東軍測量隊の作業所は昭和15年9月以降に奉天(瀋陽)から新京(長春)に移転作業をおこなったが、奉天にいたころはまだ写真植字機をつかっておらず、この使用は新京に移ってからとのことであった。

また当時の写植作業は、主として製図班図係からの原稿により版画紙に写植され、この版画紙から注記(文字)を剥離して製図原図上に貼付した。写植機は製図班の湿板写真係に設置されていた。

なお、やはり大森氏によれば、陸地測量部での写真植字機の導入について、『地図調製技術の変遷』(日本地図調製業協会、2000年、37頁)に、昭和13年に同機を購入したと記述されているという。

以上から、写真植字機の導入は陸地測量部の方が関東軍測量隊の場合よりはよいことになる。これらについてご教示下さった大森八四郎氏に感謝したい。

6-2 渡辺 正氏所蔵資料の国土地理院への寄贈

2005年3月に刊行された、渡辺正氏所蔵資料集編集委員会編『終戦前後の参謀本部と陸地測量部：渡辺正氏所蔵資料集』大阪大学文学研究科人文地理学教室の資料編に掲載された資料(67-113頁)の原資料は、国土交通省国土地理院に寄贈された。また上記資料の複写および他の資料の一部が防衛庁防衛研究所に寄贈された。これには上記資料集の編集委員であった金窪敏知元国土地理院長ならびに高木 勲元自衛隊中央資料隊地誌課長が努力された。

6-3 外邦図関係者のご逝去

『外邦図研究ニューズレター』第2号に、「第二次世界大戦中の機密図誌(海図・航空図)(1)」の講演記録をお寄せ下さった坂戸直輝氏(元海上保安庁水路部、日本国際地図学会名誉会員)は、入院中の2004年9月20日に逝去された。享年87歳。

また『外邦図研究ニューズレター』第3号に、塚田建次郎氏とともに「終戦前後の陸地測量部」の証言をいただき、あわせて陸地測量部に関する貴重な資料を提供して下さった富澤章氏(元国土地理院写真製版課課長)は、入院中の2005年4月10日に逝去された。享年84歳。

お二方には、さらにご教示いただきたかったことが多い。謹んで哀悼の意を表すとともに、関係の方にお知らせ申し上げます。

なお富澤氏の夫人、富澤すみ子様より、同氏旧蔵の『陸地測量部修技所・同教育部・地理調査所技術員養成所 卒業生名簿』(昭和27年版)、『1988年 測量教育100年』(建設大学校測量部、1988年)、および信濃毎日新聞連載「続・占領下の空白『地理調査所』物語」(1995年12月23日[第1回]~1996年2月14日[第30回])の切り抜きおよびワープロ原稿の一部を研究用に大阪大学人文地理学教室に寄贈いただいた。ここに記して感謝申し上げます。

6-4 『外邦図研究ニューズレター』バックナンバーのWEB公開

『外邦図研究ニューズレター』1号~3号のPDFファイルは下記のアドレスでご覧いただけます。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/geography/>